群青 ―丁寧に生きる、感謝と笑顔と。― Vol.57

Apr28st2023

スマホが席巻する地球と「人生は成長と深み」

『１９歳の読書論（和田渡、晃洋出版)』に刺さる文章があったので紹介する。

「いまや電車内で、スマホを手にしていない人を見つけることはむずかしい。子供も学生も、サラリーマンも主婦も、精巧なおもちゃにすっかり夢中になっている。スマホの浸透力には脱帽するしかない。いまや身体と一体化したスマホは、車内でも、路上でも、入浴中でも、食事中であろうと、ひとから離れることは金輪際ないのだ。」と 2007 年に登場した iPhone が世界を変えた。

「読書は、成長の原動力である。すぐれた本とつき合うことによって、ひとは平板で窮屈な日常から、奥行きと深さのある世界へと移行することができる。読書は、思索への招待でもある。しかし、なぜ考えることが必要なのだろうか。この世界では、われわれは挫折して落ち込んだり、他人との軋轢（あつれき）に苦しんだり、不測の事態に遭遇（そうぐう）したりして、おろおろと生きていかざるをえないが、それらに向き合い、事態を好転させるためには、深く、しなやかに考えることが求められるからである。思考は、現実の苦難に抵抗する力になる。」（同）一方、「スマホが用意するのは、思考力衰退への道である。スマホでは、考える力、困難なことに立ち向かう力を鍛えることはできない。スマホは、現在の地位から 1 ミリも浮上することなく、ただでさえせわしない時間をいっそう加速するツールでしかない。そこには、人間的な成長につながる思考や記憶、想像が生き生きと働く余地がないのだ。」（同）

「読書は、自分の狭い世界を自分で広げていく挑戦、自分で自分を作っていく試みである。狭い世界で、誰もがしていること、簡単にできることしかしないと、時代を生き抜く実力が身につかない。したくないこと、避けてしまいたいことを敢えてすることこそが、青年に望まれる。」（同）考えさせられる。

これからは、ChatGPT などの AI が加速度的に世界を変えていく。生き抜けるか？

ＫｉｓｓＦＭ「ハイスクールノオト」５月 13 日・20 日放送決定

神戸にあるＫｉｓｓＦＭというラジオ局の番組「ハイスクールノオト」の取材が 4 月 18 日に実施された。サウンドクルー（ＭＣ）の永田早紀さんと担当のＡＤの方が来られて、放送部を中心に校内でインタビューされた。毎回県内各地の高校に取材し、放送部と協力してそれぞれの高校の特徴を拾い上げてＰＲを作るという番組だ。その永田早紀さんが「全ての生徒さんが他の高校の野球部の生徒のようにしっかり目を見て大きな声で挨拶されることに驚いた」と仰っていた。外部の方のそういう評価を聞くと嬉しい。

放送部は 4 月 29 日にＫｉｓｓＦＭ本社スタジオを訪れて、最終的な収録を行う。放送は、5 月 13 日・20 日いずれも土曜日の 8:00～8:15、radiko でも聴けるので是非聴いてほしいし、メッセージも募集しているから、是非参加してほしい。自分の投稿が電波に乗って放送されたら、けっこう嬉しい。　「ハイスクールノオト」リクエスト＆メッセージ→

登校時間が早くなった

今年度になって登校時間が約 5 分早くなった。昨年は 3 年生に遅刻癖の直らない生徒が数名いて、8 時 30 分の予鈴前後になだれ込むことがあったが、今年度は 8 時 25 分過ぎにはほぼ全員が昇降口を通過できている。「遅刻ゼロの高校に私たちはなる」が浸透してきていることに誇りを感じる。

トイレの下駄の揃い具合は流石 3 年生、1 階は◎。まずは自分の使ったものを次の人のために揃えて脱ぐ。曲がっているものがあれば、きれいに揃える。3 秒でできる貢献だ。そして家でもできるようになれば定着する。つま先が行く方向に向いていたら出かける時にスムーズだ。整理は次への準備につながる。

黒田官兵衛の水五訓Ⅲ

水五訓その三「障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり」：

ホースから水を出す時、先を指で押さえると勢いのある水が出る。何かの汚れを取る時、そうやって勢いのある水にした経験は誰もが持っているだろう。川の流れもダムでせきとめ、そのエネルギーを発電機に通すことによって水力発電を行う。蓄積されたエネルギーが大きな電気エネルギーに変換される。

困難に直面したとき、自分の可能性をあきらめるのではなく、自分のエネルギーを蓄積することで、次の大きな力へ変換されることを自らに期待しよう。水の如く。